

2023年度第1四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2023年8月14日（月）16時00分～17時00分
当社出席者 : 常務取締役 古川敏之、常務取締役 大治良高

主な質疑応答 :

【全体】

Q) 想定との差異について。

A) 為替の円安効果もあり、想定をやや上回る着地となった。時計事業は為替の影響を除いても上振れとなったが、工作機械事業は下振れ、デバイス事業はやや上振れ、電子機器他事業は想定線だった。

【時計事業】

Q) 営業利益の増益要因について。

A) 欧州市場向けの完成品販売や、ムーブメント販売の増収効果、値上げ実施による単価上昇、製品ミックスの改善による限界利益の増加、為替の円安効果も寄与した。

Q) インバウンド需要の足元の状況について。

A) 2023年度第1四半期の国内市場におけるインバウンド比率は1割半ば程度だった。コロナ前の2019年度は2割強を占めていたため、半分程度の回復。中国人団体観光客の回復がない中で、中国以外のアジア地域や欧米地域からの観光客が増えており、中国からの観光客が多くを占めていた以前とは異なる製品や価格帯が受け入れられている。

Q) 北米市場の流通別の販売状況について。

A) 2023年度第1四半期の販売状況は、宝飾チェーンや百貨店で仕入れに慎重さが見られましたが一方で、EC販売やトラベル流通が好調を維持した。特にEC販売の好調が続いており下支えとなった。

Q) 欧州市場が好調の背景について。

A) 2022年度から好調が続いている。永く愛用できるトラディショナルな時計ブランドが注目されており、その中でシチズンの時計が選ばれている。特にフランスでは取扱店を拡大できている。

Q) ムーブメント販売の状況について。

A) 2023年度第1四半期は想定以上の数字を出すことができた。機械式ムーブメントが回復基調。アナログクォーツムーブメントは在庫にやや過剰感のある機種もあるが、市場在庫は最小限に抑えられており生産も安定している。

【工作機械事業】

- Q) 受注残を豊富に抱えていると認識していたが、売上高が伸びなかった背景は。
- A) 想定よりも受注残の消化が進まなかった。2023年度第2四半期は夏季休業期間もはさむため上期までの挽回は難しいかもしれないが、通期では取り戻せると見込んでいる。
- Q) EV化の影響をどう考えているか。
- A) 工作機械事業は自動車向けが4割程度を占めている。短期的に影響があるわけではないが、EV化の進展による部品点数の減少など、将来的な影響を踏まえ医療関連などへの展開を進めている。

以 上